

# 週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

## 第 20 回全国女性漁業者 グループリーダー研究集会 —10月2日 東京にて開催—

10月2日(木)、東京・グランドアーク半蔵門にて全国女性漁業者グループリーダー研究集会が開催された。

これは、講演及び討論会により活動の視野を広げるとともに、部員同士の交流を図り、女性部リーダーの育成・資質向上を目指すことを目的として全漁連が開催したもの。

全漁連大森常務理事のあいさつの後、『温暖化とさかな』をテーマに(独法)水産総合研究センター・研究主幹の中田薫氏の講演、そして、(株)水土舎・最高顧問の乾秀政氏がコーディネーターとなり、グループに分かれて全体討論会などが開催された。

討論会では温暖化による水産業への影響や自分たちにできる取組みなどについて、全国から参加した漁協女性部の皆さんが活発に意見を交換した。



中田薫氏(水産総合研究センター)



漁協女性部の活発な意見交換

## 伊勢湾北中部地区 海難救助連絡協議会(海難訓練) —10月4日 河芸漁港にて開催—

10月4日(土)、河芸漁港にて伊勢湾北中部地区の海難救助訓練が実施された。

この訓練は、伊勢湾北中部沿岸海域で発生した海難に対して的確、且つ、迅速に救助作業が出来ることを目的として毎年行われている。

四日市海上保安部、津北消防署、河芸漁協・白塚漁協(組合員約30名)などが参加し、海上に漂流した人を漁業者が引き上げる想定で訓練が実施された。



↑ 漁業者による救助作業

その後、会議室に移動し、消防署員に

よる A E D 取扱訓練も行われた。参加者らは、正確に役割をこなし無事に訓練が終了となった。



↑ A E D 取扱訓練

### 「秋の萬古まつり」で伊勢まだいPR —10月5日 四日市市にて開催—

10月5日（日）、四日市市陶栄町のばんこの里会館と萬古（ばんこ）神社一帯で、「秋の萬古まつり」が開かれた。（主催：萬古陶磁器振興協同組合連合会）

会場には、合計20ブースのアンテナショップなどが設置され、三重県のPRブース（協力：三重県海水養魚協議会）では、「伊勢まだい」とJA全農みえのブランド米「結びの神」を使って、萬古焼の土鍋で炊いた鯛めしを来場者に試食して頂いた。

当日はあいにくの雨模様だったものの、萬古焼の土鍋で作った料理の味を競う「土鍋料理グランプリ」や「萬古太鼓の演奏」、「土鍋の絵付け体験」などもあり、多くの来場者が訪れ大いに賑わっていた。



三重県PRブース



鯛めし(試食用)

### 平成26年度第1回シジミ勉強会 —10月7日 岐阜県横山ダムにて開催—

10月7日（火）、岐阜県横山ダムにおいて、平成26年度第1回シジミ勉強会の現地研修会が行われた。

この勉強会は、木曾三川流域や河口部に生息するシジミ、ハマグリなどの生態環境などについて行政（河川管理者等）及び赤須賀漁協青壮年部研究会（漁業者）が、共通認識を形成しながら未来のより良い河川環境づくりに向けて協働するもので、一昨年より年3回程度開催されている。

今回は、木曾川下流河川事務所の若手職員や赤須賀漁協青壮年部研究会、その他関係者らおよそ40名が参加し、ダム管理所の職員から下流に流す水の濁りを軽減するための設備や、上流にある徳山ダムと連携して水量調整を行うことで洪水等の防止に努めているなどの説明を受けた。参加者は皆、熱心に説明を受け、担当職員らは質問への対応に追われる姿も。

ダム見学後は、揖斐川歴史民俗資料館において、揖斐川の歴史等について詳しい説明を受けた。



#### 【主な予定】

○10月16日（木）

三重県海水養魚協議会（錦）

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。